

横綱陣は合格、大関には奮起を促す

場所後、井上相談役は取材に応じ、今場所の横綱大関陣について総評した。「羅皇」については何も無い。優勝決定戦では不覚を取ったけど、彼が負けたのを久しぶりに見たよ。三十三連勝、これは大記録だよ。あつ、優勝決定戦の負けはカウントされないから、連勝記録は継続中だよ。」

次に横綱駒響。「あんなに強いのに、よほど優勝に縁がないんだねえ。新横綱だった先場所が初日から十連勝しながら、全勝対決で羅皇に敗れ、今場所も十日目まで九勝を上げていながら、千秋楽の結び前に優勝の可能性がなくなりました。駒響は平幕だった第十一回本場所ので優勝して以来、これで六場所賜杯から遠ざかっており、すでに優勝四回の羅皇とは差がついてしまっている。しかしこの六場所のうち五場所は九勝以上しており、その安定感は羅皇と

並んで特筆ものだ。井上相談役は「もちろん合格点だよ。でも駒響には何か不運がつきまわっているよね。あれだけの力と安定感があるのに、ウチの七不思議だよ。」

もうひとりの横綱紫電も久々に本来の相撲が戻ったように。横綱昇進後は腰痛の影響で精彩を欠いていたが、今場所は九日目で一敗を堅持し存在感を示した。十日目(駒響・千秋楽紅桜)と連敗したが、昇進後三場所目まで自己最高の八勝を上げた。まあ、紫電改についてはさほど期待していなかったんだけど、よく復調したよ。全盛期のような圧倒的な強さはないけど、及第点はやっていいと思うよ。」

一方、今場所カド番だった大関大木戸については、「前半はまずまずだと思っただけ、やっぱり相撲に迷いがあるよね。千秋楽でかろうじて勝ち越せたけど、ま

まだまだ大木戸本来の相撲じゃなかった。四強のひとりと言われたのが遠い昔のようだよと奮起を促した。「全体としては横綱陣は合格、ただし、来場所は賜杯を取り返すこと以上!」と話を締めくくった。

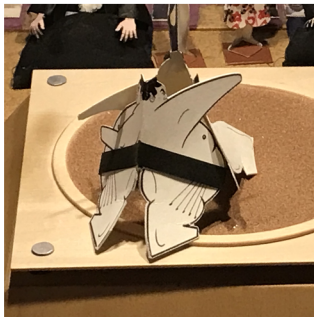


加古川紙相撲協会の井上相談役

加古川部屋、歴史的白星

日本紙相撲協会との力士交流の一環として、東京へ送り出した四名の力士のうち、一月二十七日に行われた新弟子検査で、鶴ノ里と平之荘が合格し、初土俵を踏んだ。序ノ口スタートの平之荘は強敵相手(春日根部屋の不破桜)に健闘し黒星スタートだったが、序二段に付け出された鶴ノ里は加古川部屋として記念すべき初白星(相手は播磨屋部屋の金狐角)をあげた。師匠の加古川親方(元小結・晴皇)は「まだ始まったばかり。これから強敵ひしめく中で闘いが続いていく。慢心することがないように引き締めてやっていく」と語りつつも、口元は笑みが溢れていた。吉報を受けた南の海理事長は、「正直ホッとした。なんと同じ土俵で戦ってみたいという手応えを掴んだ。次の取組が楽しみだよ」と二月十八日の取組が今から待ち遠しい様子だった。

井上相談役は、私が徳川さんの著作を通して日本紙相撲協会のことを知ったのが今から三十五年も前のことだ。まさか自分が作った力士がその土俵に上がることになるなんてまさに夢のようだよ。でも感傷に浸ってばかりいる場合ではない。相手の土俵に立つ以上、やはり勝つことを考えないと。鶴ノ里は確か



←平之荘は、春日根部屋の強豪不破桜に敗れるも、大健闘!

に楽しみな存在だけど、そんな甘い世界ではないことは重々承知している。まずは勝ち越し、そして三段目、幕下と一歩一歩前進、石の上にも三年、愚行山を移すだよ。」

最後に井上相談役は、ぜひ取組を生配信してもらいたいね。やっぱり愛弟子の取組の様子を生で見たいじゃん。日本紙相撲協会の理事のみなさまぜひご検討ください! なんならアーカイブでもかまいませんので、ご要望を語ってください。」

部屋だより

天の川部屋

▼: 天の川親方の表情が冴えない。西の国部屋から独立してはじめての本場所、場所前の稽古も熱気に溢れていたが、序ノ口戦で所属する三名全員が負け越すという惨憺たる結果に終わったのだ。まさかねえ...」

という言葉の次がなかなか出なかった。さらに追い打ちをかけるように、東前頭十三枚目の明智山も負け越して幕下転落が決まっていた。

部屋の経営が軌道に乗るかどうかは、弟子が出世するかどうかにかかっている。関取が育たないことには、部屋は遠からず衰退してしまうのだ。

「師匠である自分が落ち込んでいたら、部屋はますます暗くなる。とにかく元気を出して前向きにやっていくしかないよ」と自分言いに聞かせるように語るのだった。

友砂部屋

▼: 徳勝が全勝で幕下優勝を飾った。先場所に続いて土付かずの全勝で格の違いを見せつけた。結果を出せて何よりですよ。来場所はいいよ幕内。今からわくわくしますね。」

同じ部屋の高木山、道頓堀も勝ち越し、さらに新弟子も二名加わって、部屋運営のための雑務を一身に背負ってきた徳勝だが、「やっぱり土俵に集中できることが一番。」

南の海理事長は、「ふさわしい人材を師匠に据えられるように調整中だ。もう少し待つてほしい。」

鹿賀乃戸部屋

▼: 当協会の新弟子検査において稽古相手の重責を担っているのが、鹿賀乃戸部屋の鹿ヶ岳。それだけ指導教育部長西の国親方の信頼が厚い。自身は幕下十二枚目で四勝一敗の好成績で来場所はいいよ幕下上位に進出。関取挑戦の大事な場所となる。「こまめにやら、早く上がりたいね。自分のためにも、そして部屋のためにも。」

場所後の理事会で、元関脇大入道が年寄「鹿賀乃戸」を襲名し、師匠就任が決まった。「所属力士は今のところ二名だが、新弟子採用も精力的に行っていきたい。そして何より早く関取を誕生させないとね。」と抱負を語った。

小松島部屋

▼: 岩ノ城部屋からの独立後、弟子の育成に苦労している小松島親方だがようやく明るい兆しが見えてきた。幕下七枚目の高砂、同八枚目の鞍馬山が四勝一敗の好成績でいいよ来場所は幕内が手に届くところまで来たのだ。「こまめに長かったよ。関取ひとり誕生させることがこんなに大変なこととは思わなかったよ。」

さらに、幕下十五枚目の伊吹島、同十九枚目の照阿武も勝ち越しを決め、親方は「こり。独立して五場所経ったが、こにきて俄然勢いついてきたようだ。」

大乃森部屋

▼: 場所後に部屋頭の大入道が突如引退を表明し、部屋に衝撃が走った。さらに元前頭の一徹、幕下の加茂錦も廃業することになり、所属力士が一気に三人も減ることになった。

大乃森親方の話、大入道はまたやれると思っただが、井上相談役から鹿賀乃戸部屋の師匠就任の打診があったようだよ。本人も悩んだ末の決断だったのでその意志は尊重した。部屋は若返りの真っ最中、楽しみながら若手も出てきた。それほど悲観してはいないよ。」と前向きを装っていた。

今出川部屋

▼: 「もう故郷へ帰れ」場所後今出川親方は幕下の若の山と月見山を呼び出し、このように告げた。若の山は幕下在位十場所、月見山も在位六場所を迎えていたが、両者とも今場所は負け越していた。

「これ以上、だんだんと時間を失わせるわけにはいかない。まだ若い二人だからこそ心を鬼にして通告した。あとの面倒は必ず見る。二人には充実した第二の人生を歩んでもらいたい。」

若の山、関取を夢見て今日まで必死にがんばってきた。自分で精一杯やっただと思っっています。師匠には感謝しかありません。」

月見山、故郷へ帰ったら、うじん屋で修行することが決まっています。必ずうじん屋の横綱になってみせます。ぜひ食べに来てください。」

保山部屋

▼: 保山親方の高笑いが見止まらない。四人の関取を擁して迎えた今場所、新入幕の紅桜が破竹の勢いで初優勝、取組賞も受賞した。さらに西幕下筆頭の若鳴門も勝ち越して来場所の新入幕を確実にし、部屋は五人の関取を抱える大所帯となった。

「みんなよくやってくれた。部屋の雰囲気? 最高に決まっているでしょう! 紅桜はきつと大関になってくれますよ。」

手持ち資金も二千六百万を超えてまさにウハハハ。「そろそろ分家? そうだね、いや(へへ)と頬が緩みっぱなしだった。

編集後記

広報部長の仕事は、当協会の存在をアピールすることにも紙相撲の魅力を世界に発信することである。万寿山親方はYouTubeに着目して動画アップを始めたのだが、「そんなに甘い世界ではないですよ。」

現在のチャンネル登録者数はやっつと六十人を超えたところ。とにかく動画の編集が大変なんだ。十分程度の動画でも、完成に半日掛かる。これが本職なら別にいいんだけど、そういう訳にもいかないのね。」

それでもこれまで二十本以上の動画をアップしてきているんだよ。が再生数はどれも大して伸びていないようだ。」

「紙相撲はニッチな世界なんで、すぐには結果は出ないですよ。手応え? あんまりないかな。今のところはね。でもね、いつかは光を浴びながらきつと笑える日が来るさ」と鼻歌を歌いながら去っていくのであった。



→加古川部屋の鶴ノ里が部屋創設初白星! (一月二十七日練馬国技館にて)